

5月21日（木）教育厚生委員会所管施設視察を行いました。

9:00 から教育部より所管事務調査の予備教育をレクチャーしていただきました。特に学校給食については、学校教育課より提出された所管事務調査資料の中に網羅されており、質問、回答が充実しており、委員より質問する余地がないぐらいの状況でした。

教育施設の現状把握は各施設の視察を行いました。行程表に基づき、修善寺東小学校、修善寺小学校、熊坂小学校、修善寺南小学校、中伊豆小学校新校舎建設現場の順にて行いました。

【修善寺東小学校】

校長先生、教頭先生より、学校経営書に基づき、学校概要等の説明をいただきました。また、学校経営目標“東小に関わるすべての人にとって Well-Being な学校に”のことについては、地域の皆様に大変お世話になっております。との言葉がありました。

特異なこととして、校舎が3階建ての話があり、確かに昭和46年以前に新校舎建設に際して地元でも、2階 or 3階の論争があったことを思い出しました。今回の施設視察の目的ではないものの、総児童数79名のことについて尋ねました。少人数制の良さを強調されてはいましたが、保護者の意見集約は統合のようでした。現校舎も55年目、児童数も年々減少、中学校の統合、等々私の地元でもあり小学校に対する思い入れはあるものの、子供たちの将来のための統合の必要性を感じました。

【修善寺小学校】

校長先生、教頭先生より施設についての説明をいただきました。児童数58名とのこと。複式学級になる可能性もある中、何とか現状、一学年一学級を維持とのことでした。児童数減少のため、職員が減員されており、現場はやりくりで苦慮しているとのことでした。施設については、やはり老朽化が進み、いたるところでの故障がみられました。また、学校給食の試食もさせていただきました。

15年程前になりますが、修善寺地区の小学校再編問題の折、急先鋒で反対したのは当小学校区であったことを思い出しました。地域から小学校がなくなると地域が衰退し少子化が益々進むとの論拠でした。しかし、残念ながら今日現在修善寺小学校は現存しているものの少子化は激しく、複式学級の想定さえされる状況です。少人数の良さは説明いただきましたが、何年か前にも目にした、

学校だより「だるまっ子」の記事“児童のまとまりがある、しかしコミュニケーション能力が気にかかる”との一説が頭をよぎりました。

また、結果のことですが、3小学校は学校経営書が資料として渡されましたが、なぜか修善寺小学校はありませんでした。教育部の問題なのか、共通の通達をすべきではありませんか。

【熊坂小学校】

校長先生、教頭先生より学校経営書に基づき学校概要等の説明をいただきました。校歌の制定が明治43年とのこと、文言が明治のままでいかがかとは思いますが、伝統の継承と、現在も児童たちは声高らかに歌っているとのことでした。児童総数99名。ちなみに私時代の1学年の人数とほぼ同じです。

施設については、数年前集中豪雨で駐車場が水没、現状では集中豪雨時、保護者の児童の迎えなどにも支障があり、早急に解決すべきである旨の発言がありました。水泳授業も本年から“ふれっぶ”使用になるので、応急的にプールの上に蓋をして駐車場にしてはとの現場の意見もあるとの提案がありました。

小学校の再編問題は、保護者の意見集約は統合に賛成、熊坂小学校区は反対の意見は保護者の一世代、二世代之上の人たちの意見とのことでした。

【修善寺南小学校】

校長先生より学校経営書に基づき学校概要等の説明をいただきました。

施設の老朽化の問題は多々あるものの、5年後の再編問題との整合性を考慮すべきと現場は理解しているとのことでした。特にトイレの臭いの件は、現場に出向き見てまいりました。私の感想としましては、それほどの問題ではないと思いましたが、一般家庭の生活が豊かになり、便座の前に立つと便器の蓋が自動で開く時代、確かに施設的には不満はあるとは思われますが、それも学校であること、教育の一環ではと考えるのは時代錯誤でしょうか。

【まとめ】

老朽化のため施設の不具合、人口減少、少子化、等々相まって今が修善寺地区の小学校再編の機会と捉える時期と感じました。

以上所管事務調査の報告をいたします。

鈴木優治

教育厚生委員会所管事務調査報告書

教育厚生委員会
黒須 淳美

1 調査日

令和8年5月21日（木）

2 調査対象

伊豆市立修善寺東小学校、修善寺小学校、熊坂小学校、修善寺南小学校、
中伊豆小学校新校舎建設現場

3 調査項目

学校給食および教育施設の現状確認と課題把握

4 調査結果

（1）学校給食について

学校給食では、栄養バランスを考慮し、家庭で不足しがちなカルシウム、鉄分、食物繊維を多めに設定、また生活習慣病予防にも配慮した献立づくりが行われていた。摂取基準を順守しながら、旬の食材や地場産物(精米、椎茸、大豆)を積極的に活用することで、児童の豊かな食経験につながる工夫がされていた。

物価高騰の影響に対しては、肉の部位変更や量の調整、調味料の一括購入への切り替えなどの工夫を実施していた。さらに栄養教諭等が納入業者から食材価格の変動状況を細かく確認し、より有効な食材確保に努めるなど、児童の心身の健やかな発達に努めている。

（2）教育施設について

市内小学校では、外壁や窓、屋根からの雨漏りなど老朽化による不具合が見られるものの、必要な修繕を適宜実施していた。また、屋根やエアコンについては定期点検を行い、雨漏りなどの改善につながるなど、予防保全に努めている成果が見られた。

トイレや水回りについては、以前課題とされていた臭いの改善が図られており、今後は壁面の色彩を明るくするなど見た目も含めた環境整備を検討しているとのことであった。

エアコン設置および耐震工事は完了しており、各学校で緊急時対応マニュアルも整備されるなど、安全性については確保されているとの説明を受けた。

ICT環境についても、Wi-Fiやネットワーク環境は導入当初の混乱を経て安定的に運用されており、一人一台端末の更新も完了、現在は授業での利便性向上を目的として短焦点プロジェクターの導入を進めているとのことであった。一方、児童数減少に伴う課題も確認された。今後、修善寺小学校では令和13年度に複式学級となる見込みがあり、児童数の減少は教員数の減少にもつながることになるので、小規模校の利点である「目が行き届く教育環境」の維持が難しくなる可能性が懸念される。

中伊豆小学校新校舎建設については、物価高騰やホルムズ海峡封鎖の影響など諸般の状況により、開校時期が当初予定より遅れる見通しとの説明を受けた。年度途中での移転となる可能性もあることから、保護者や関係者への丁寧な説明と情報共有を行い、円滑な移行に努めるよう望む。

伊豆市議会 教育厚生委員会 調査報告書

2番 飯田 大

令和 8 年 5 月 28 日

実施日時	令和 8 年 5 月 21 日 (木) 9 時 ~ 15 時 30 分
参加者	教育厚生委員6名、議会事務局局長、議会事務局主査
用務先	委員会室、修善寺東小学校、修善寺小学校、熊坂小学校、修善寺南小学校、中伊豆小学校新校舎建設予定地
対応者 (研修先講師等)	教育長、教育部部長、学校教育課課長、建設課課長、修善寺東・修善寺・熊坂・修善寺南小学校校長・教頭
目的・内容	<p>《目的》 学校給食および教育施設の現状確認と課題把握</p> <p>《内容》 1、説明聴取 2、現地視察</p> <p>【視察順】 修善寺東小学校→修善寺小学校(給食試食)→熊坂小学校→修善寺南小学校→中伊豆小学校新校舎建設現場</p>
成果・感想	<p>《 成果 》</p> <p>1、修善寺東小学校 ○学校教育目標「自ら未来を切り拓く東っ子」 重点目標「みんなが主役の学校～自分らしく輝こう～」 ○児童数 1年生10名、2年生10名、3年生15名、4年生13名、5年生16名、6年生15名、合計79名 ○校舎建物間のつなぎ目、隙間から風が入る。</p> <p>2、修善寺小学校(給食試食) ○学校教育目標「チャレンジ つながる だるまっ子」 重点目標「思いを伝え合おう共にチャレンジしよう」 ○体育館の天井からの漏水あり。</p> <p>3、熊坂小学校 ○学校教育目標「学び合い 支え合い 挑戦する子」 重点目標「楽しさを 響かせよう」 ○児童数 1年生15名、2年生19名、3年生16名、4年生10名、5年生15名、6年生24名、合計99名</p>

4、修善寺南小学校

○学校教育目標「共に輝くたくましい南っ子」

重点目標「自分の考えをもち、学び合う子の育成」「安全で健やかな体を育む生活」「自己肯定感を高め、他者を尊重する心の育成」

○児童数237名

5、中伊豆小学校 新校舎建設現場視察

《 感想 》

- 1、児童数の減少がみられ、学年により男女差数が大きい。
- 2、児童数の減少がみられ、複式学級について学校側と、保護者、学区関係者の検討が必要
- 3、水害の対策が必要。指定避難所になっているが、水没の可能性がある。
- 4、トイレの悪臭は改善できていない。トイレの改修が必要と感じた。移転時期を急ぐ必要がある。校門前の道路改修後の横断歩道の安全面の表示板等の設置が必要と思われる。
- 5、更地状態、自然災害の危険性がなく隣接道路整備が計画され整備が進められる。

《 説明聴取・現地視察を通じた感想 》

学校給食の実情について中伊豆給食センターと天城給食センターはともに委託先がシダックスフードサービスとなった。ヒヤリハット事例もなく、運営状況は問題ない。食材の価格は上昇傾向にあるが、内容を工夫して栄養摂取基準を達成している。

検食は一食当たり450円で美味しく頂いた。牛乳はストローを使わない工夫がされていた。

修善寺南小学校を除く3校は児童数の減少が見られ、複式学級へ移行することも否めない。一校に統合し多くの児童が一堂に学ぶ環境にすることが望ましいと感じた。

またいずれの校舎も古く、各所に経年劣化がみられる。維持費に多額の経費を費やすのであれば廃止し統合が良い。また使用していないプールの管理を考えて欲しい。

中伊豆小学校は適正な環境であり、一刻も早く新小学校での児童の学習の場を整えてほしいと感じた。

各学校で説明をいただいた校長先生や教頭先生を含め教職員の業務の煩雑さを垣間見た。

修善寺地区小学校の視察報告

小川多美子

5月21日(木)教育厚生委員の所管事務調査で訪問した修善寺地区4小学校の視察報告をします。

修善寺東小学校

「みんなが主役の学校」～自分らしく輝こう～を重点目標に、子どもたちの「好き」を育み「得意」を伸ばす芽が大きく伸びていくよう考えていくとのこと。児童数79人で、1年生と2年生はそれぞれ10人で教室には小さな机と椅子が並んで勉強している姿もありました。

地域の皆さんも協力的で、泥水の中を手で植える田植えの大変さを経験させてくれ、学びの場を作ってくれることをありがたく思っていると校長先生は話してくれました。

修善寺小学校

3年前に創立150周年を迎えたというこの学校は、児童数58人で修善寺4小学校の中で最も児童数の少ない小学校です。校長先生は「明るく素直、積極的な子どもが多い」と子ども達を褒めていました。また、学区には「紙漉き、切り絵、麦わら細工」など優れた才能を持った方がいるとのことでした。学校で給食を戴きました。メニューは、「お茶飯、ハンバーグをメインにいろいろの副菜、デザート」もありました。どれも美味しく、子どもたちは給食が楽しみではと思いました。

熊坂小学校

全校児童99人のこの学校は、学び合う楽しさ、支え合う楽しさ、挑戦する楽しさ等「楽しさを響かせよう」を重点目標にしている。地域住民の学校への関心が高く学校施設面で協力的でありがたいとのこと。給食は縦割りで全校一緒にランチルームで食べるようだが大勢で食べる給食はきっとおいしいでしょう。

また、昭和 33 年の狩野川台風で大きな被害をもたらされた熊坂地区は、小学校でも防災への意識高揚をはかるため狩野川台風資料室を設けたり、実際に被災された方のお話を聞く会を実施している。

修善寺南小学校

修善寺 4 小学校の中では児童数 237 人と一番多い。「共に輝く たくましい南っ子」を教育目標に「自分の考えを持ち、学び合う子の育成」(知)「安全で健やかな体を育む生活」(徳)「自己肯定感を高め、他者を尊重する心の育成」(体)を重点目標としている。

新学期が始まるとゴールデンウィーク前後には家庭訪問があったが、今では親の都合で家庭訪問をするか、しないか聞づらい。これを希望家庭訪問と言づらい。20%の家庭を訪問するらしい。時代の変遷を感じた。

学校前の三叉路工事が終わり道路が広がった。横断歩道が少しだけずれた。車はカーブを曲がりやすくなったが、事故が起きなければいいなと願う。

4 校を視察して感じたことは、どこの校長先生も子どもが大好きで子どものことを温かく見守ってくれているという印象でした。児童数に差はあるが、中規模、小規模校それなりの良さを感じました。

最後に視察した中伊豆小学校建設予定地、広い敷地で静かな環境でいい場所だと思います。今の 4 年生が入れるかどうかでしょうか。楽しみに待っているかもしれませんが。気を持たせることのないようにできるだけ早くできますように願います。

令和8年5月25日
教育厚生委員会 下山祥二

教育厚生委員会 所管事務調査 報告書

① 学校給食(内容・運営・課題)

給食の内容は家庭で不足がちな栄養素を多めに設定するなど、栄養バランスを考慮した献立の工夫がされ、地産地消の観点から旬の食材を地元生産者から直接購入して提供しているなど内容的には特に問題なく運営されていると感心しました。またアレルギー対応やコストを抑えながらも栄養基準を満たしていることも確認いたしました。実際に修善寺小学校において試食させていただき、地元のしいたけを使ったハンバーグ等を美味しく頂きました。今後も作業内容においても無理をすることなく、安全安心な給食の提供をお願いいたします。

ただこの分野でも物価高騰の影響を受け、品質を落とさずに給食を提供する努力がされている現状を改めて確認したが、伊豆市の宝であることも達の健やかな成長を願い、質の高い給食の確保のため予算確保や国、県へのさらなる財政支援の要望が今後の課題であり我々の責務であると思いました。

② 修善寺地区4小学校の施設整備の状況と課題

・施設の老朽化状況

全ての修善寺地区の小学校において豪雨による雨漏り、駐車場内への越水をはじめ水回りの使用不可など施設の老朽化は歪めない事実であった。しかしながら、それぞれの学校と教育部の連絡は密にされており、簡易的な修繕や維持管理は適正にされていると判断しました。

尚、修善寺南小学校のトイレについても一か所のみ多少の臭いはあったが決して我慢できない程度ではなく、清掃が行き届いており清潔に保たれていました。

今後も児童の安全安心を第一に施設の維持管理に注視しつつ、修善寺地区の小学校再編を加速させていくべきであると思いました。

・教育環境の整備状況

ICT環境(Wi-Fi環境、一人一台タブレット、電子黒板)は問題なく利用されている。タブレットは今年度更新済み、また短焦点プロジェクターの導入も進めており、エアコンについても各中学校から移設し特別教室全て設置されているなど、教育環境整備について配慮されていると判断しました。

・児童数と施設規模のバランス

修善寺南小学校以外の児童数は3小学校全てが100人未満という規模であり、かつ修善寺小学校においては一人でも転校すると複式学級になる状況の中、児童数7人のクラスを見学させてもらいました。こども達は明るく元気に授業を受けており、大きな声であいさつもできて大変気持ち良かったです。こども達の未来を考えると、このまま推移していくのを看過して良いのか複雑な想いがしました。

また、熊坂小学校の校長先生の話の中で、「熊坂小学校の保護者や児童は生活圏が伊豆の国市です」と伺い、位置的な関係から当然であるが、このように立地的な側面が修善寺地区小学校再編に対し、他の3小学校に比べ消極的な理由かなと改めて考えさせられました。

③ 中伊豆小学校の実施設計の現地調査

・中伊豆小学校建設予定地の旧中伊豆中学校の跡地(現地)にて実施設計と見比べながら説明を受けた。

伊豆中学校と同様にラーニングコモンズやオープンスペースを設けており、校舎に接した「やませみ広場・創作テラス」は生徒の課外学習の場として、また地域へ開放し、こども園の園児との交流の場となるなど早期完成、早期開校を楽しみにして期待いたします。

以上

令和8年5月29日

伊豆市議会教育厚生委員会所管事務調査報告書

教育厚生委員会 青木 靖

調査項目 学校給食および教育施設の現状確認と課題把握

調査対象 修善寺地区小学校及び中伊豆小学校建設予定地

調査日時 令和8年5月21日 9時～16時30分

調査報告

1. 修善寺東小学校

児童数79名、6学級、教職員数20名。直ちに複式学級になる段階ではないが、1年生10名、2年生10名と児童数は少ない。各学年の男女比については極端なかたよりは無い。教科担任が可能な教師は8名であり、外部行事への参加時など授業の担当教師を調整するにあたっては、人的余裕がない状況。この点は、修善寺小学校、熊坂小学校も同様。

校舎は維持管理が適切に行われていると認められた。校舎と体育館の間の通路両側の繋ぎ部分は、隙間があり、風向きによっては雨水が浸水する状況で、対応が必要か。

338平米のランチルームがあり、全校生徒が一堂に会し昼食を取っている。昼食時に連絡事項の伝達などを効果的に行うこと出来ているとのこと。食事以外にも有効活用が望まれる。

2. 修善寺小学校

児童数58名、6学級。1年生8名、2年生6名、3年生8名、6年生8名。静岡県では、2学年合わせて14人以下（1年生を含む場合は7人以下）になると複式学級が編成されることになっており、本年度は6学級だが、2年生・3年生のうちあと1人でも減ると複式学級になる。なお、本年から教員数は1名減になっており、市費で臨時教諭をあてているものの、本来担任を持たない教務主任が担任を持つ対応を取っている。授業の担当を割り振るのに苦慮している現状とのことで一部の教員に過度の負担がかかっている現状である。

学校施設は、必要に応じ順次改修されている。風向きにより雨漏りが発生する箇所があり、教育活動に支障が無い程度であると認められるが、順次改修すべき。

以前問題になっていた校庭の西側に位置する放課後児童クラブへの通路が雨天時浸水する事象については、コンクリートで通路をかさ上げされており、課題が解消されていた。

3. 熊坂小学校

児童数99名、6学級。教諭は、教務主任を含め7名。上記2校よりは生徒数が多く教員数も多いものの、研修等で2名の教諭が不在の場合は教科担当の配置に課題があるのが現状である。

校地が河川に対して高さが無いことから、大雨時には校舎半地下の駐車場が浸水する状態。昨年も大雨洪水警報発令時には駐車場が水没した。児童の引き渡しに際し、事前に熊坂区の公民館施設に移動する対応を取っていたので無事引き渡しが出来たが、判断が遅れると、問題が生じる可能性をかかえている。使用していないプールを駐車場に転用できないか、検討を考えているようだが、早急に対応策を取ることが望ましい。

6年生5年生の教室に単焦点型プロジェクターを黒板上に設置したが、位置が中心にあることで黒板に書き入れるスペースが少なくなっているため、位置を左右のどちらかの端方向に移動移設させたいとの要望あり。

体育館など、風向きにより雨漏りが発生する箇所があり、順次改修が必要。

トイレは、故障のため使用禁止になっているものが複数ある。児童数が少ないため、渋滞等はないとのことだが、修善寺地区の他の小学校同様、各家庭レベルのトイレ環境に向けて改善していくことが必要なのだと思う。

4. 修善寺南小学校

児童数237名、13学級（内、特別支援学級3）。静岡県では36人学級制であり、2年生と4年生は現状ぎりぎり2クラスで、一人減ると1クラスになる。通級指導教室も2つあり、特別支援に対応する小学校として機能している。

従来からトイレに問題があるとの指摘があったが、徹底した掃除が行われていて悪臭は無かった。作りが古いのは致し方なく、1階のトイレについては排水管を掘り起こして管を取り替えないと課題解決にならない現状。管をふさいで、近年採用されている乾式の床のトイレに改修するのも一案だと考えるが、費用対効果から、修善寺中学校を改修して新校舎として使用する計画を待つしかないのか。

5. 中伊豆小学校新校舎建設現場（中伊豆中学校跡地）

旧中伊豆中学校校舎が解体され更地。新中伊豆小学校の計画を確認した。放課後児童クラブが敷地内に設置される予定であり利便性と安全性が向上することを期待する。送迎車の動線も考慮されている。大型バスが2箇所から進入可能とのこと。

6. 学校給食の現状

修善寺小学校で、児童と同じメニューの給食を実食した。栄養のバランスが確保され、地元食材も可能な限り使用されていて、良好な状況で提供されている。